

各科
校友会
合同懇親会

目
白
椿山莊で
開催

農林医学部校会会下、下部組織と名によって構成される実行委員会として各校校友会を充足して以後、校友会は暫々と充実発展の基礎をを準備するに及ぶべきであった。

学部祭賑やかに開く

展示・研究発表・仮装行列等

にも専断し、専門員多数教授を始めた。旧聞、専門家、業界関係者一般人多数が来場、授受関係では工藤会長、北川副会長、白山副会長、佐藤いもうる会会長を始め、多くの校友が来場し、三日目には耕種科同窓会、紫雲会役員会なども開かれた。

学術展示会では、耕種部門ではイネ、果物、バラの品種見本の展示、動植物遺伝の図説など、農産部門ソーセージ、各種蒲鉾の見本、愛

の分析などがあり、医農部門ではイヌの手術実演が人気を呼び、リン、ブタ、ウマの内臓、ウシの胎盤、狂犬約など畜産部の標本展示があつた。林学部門ではバルブ工場の模写、リス、ネズミ、鳥類など山林小動物の標本、果樹の小さな学生作品の展示など、かなり手広く展示内容が子供たちの人気を集めた。水産部門ではフィッシュショーセージ、各種蒲鉾の見本、愛

頃の研究成果を発表した。各科で、更にグループ賞としては、農學科の「茶園圃」が第一位となり、個人賞には、農學科秋山君が「馬方」を演じて第三位に入賞するなど、天にも良好であつたが、一部が大きいところでは商談など、すくなくとも、その側面があつた。この他文化関係のお国自慢の民謡に得意のノドをふるむとして、近頃の人情にも、喜ばれた。

水産学科は旧五校卒業生二三名
職決定し未決定は四名であ
主な就職先は林業水産、小川
薬、岡田冷凍、京浜油業、雪印
薬、旭水産工業、東京水産館、
和田水産館、網太製網などこ
他諸球公務員となつた者もあり
は水産函授教諭が一名になつ
ている。自家營業者もかなりあ
る。

印刷各種版活

三 小 三 郎 小 関

株式會社

丸の内3の3
代田区
4061-1776

“農芸化学科”具体化する

学科構成委員会答申書提出

昭和二十一年四月に行われた農林学科特別委員会代表と本部並に農林医学部書記の会合の模様は、先に本紙掲載したが、その後当日の様子は、農林医学部當局においては、學科樹成研究委員会（委員長中島教授）各科主任教授水井、大村副教授の九名が設けられ、學部の進展上農芸化学科學問題を中心として學科樹成を如何すべきかにつき昭和三十一年六月下旬より十月上旬に至り審議され、同委員会としての諮問各申渡しが農林医学部編輯に提出された。さて農芸化學科と他學科の関連性を見るに、農芸化學科にとつて土壌肥料等の農藝化學が主要な學科であるところ、水理化學、水産生物化學、水產製造學、林産化學、各科の微生物學等、農藝化學との關係は極めて密接である。わが農林醫學部に見るに農芸化學は農藝衛生學科とは比較的に學間的関連性が少ないが、他の學科とは関連性が多い。然し乍ら農學科の専攻としての現在の農産製造學科では上述の現任の農産製造學科では進修條件であらう。わが學部においてある程度の施設設備を充實して有することが、昇格の必須条件であらう。

新制の公私立大學でこれに適しないものが多く、舊制が嚴重になつてゐるので、ある程度の施設設備を充實して有することが、昇格の必須条件であらう。わが學部におい

可憐である。然らざれば、國の將來の發展は望めない。著者等の招徠や宣伝は必要ではあるが、これのみに重きをおてはならぬ。これらは長い目でみるべき家外教育。効果は少く、時には逆作用すら生ずることは、多くの学校に於て時代の推移が証明している。聞くところによると、最近では設備如何、由堅以下の研究に審議の重点を移してに至つてゐる。わが学部的发展爲めのため、この点を特に學校當局に期待している。

学部祭仮装行列

友友会名簿は昭和二十九年二月算上の都合で毎年出版することになり発行されましたが、その後旧京畿医科大学の合併により、人数も約九千人に達し又往所勤先の移轉等も相違あり、より正々定価は一部百円（送料共）です。希望者は所属の各科教授友会又は日本大学農獣医学部長会事務局へ代金をそめて御申し込下さい。

昨年より好転

就職狀況

去る五月二十五日の卒業式で農 医学部から約二〇〇名(短大、 大学院を含まず)の新卒業生が生 れたが、その就職状況は「神武景 氣」のおかげか一昨年、昨年に比 びかなり好転してきている。各学 科毎に様子を見ると	農学科耕種学専攻は新卒業生三 〇名、試験場、地方官庁などに五 名、農園組 名、青果市場、新農 林社、馬越南南などに一一名宛 入社し教員三名、自営者名、大学 院進学生一名となっている。変て	いるところは防衛庁の被服隊に 採用された者もいる。未定又は不 確確は七名となっている。	農産製造専攻は八名卒業し専売 公社地方局、保証牛乳、長峰セル ロイド、小樹 商食、北星 研究所 (二名) 調和醸造業自営と全員決 定した。
農医学科は百三名の大世帯でこ の中森水、明治、雪印、クローバ ー、保証などの乳業関係に一四 名、二共なり製菓会社三名、畜 産会社二名、県共済組合関係一	名、試験場、地方官庁などに五 名、農園組 名、青果市場、新農 林社、馬越南南などに一一名宛 入社し教員三名、自営者名、大学 院進学生一名となっている。変て	いるところは防衛庁の被服隊に 採用された者もいる。未定又は不 確確は七名となっている。	農産製造専攻は八名卒業し専売 公社地方局、保証牛乳、長峰セル ロイド、小樹 商食、北星 研究所 (二名) 調和醸造業自営と全員決 定した。

農林経済学部は、卒業生数一六八名、地方中央官公立各、千葉県庁、千代田市、丸中町、馬越前田、正生命、常盤松青、川崎中学校各一名、教員一名。自署者は諸君、農業一名なほっており未決者は、名も定まらず。

商学専攻科は、八名卒業し、専修毛、協同飼料、北海道酪産協同会、全国畜産、現代製菓などの部などに入社した他履修者、九大農部などの研究機関に進む者もある。好景の影響で就職者も八に好対初仕給といふところから

本部の職員を招けて、代表大先生、理事の責任を分けるのが恒例とさる会の忘年会を、更に、兩校友会と農獣医学部の懇親を図るため、大学本部並に農獣医学部の教授の方々を招待して、校友理事会と経議員の合同の忘年会、十一月十三日、平間講堂園で開催された。

本部体育局長立花先生、本部長友会事務局長長栗先生、岩田農獣医学生会務部長大森理雄氏を始めとして、大学側から約千名、校友会側から四十名近くの出席見、工商會長の挨拶に始まり岩田先生、立花

日本大学農獣医学部
校友会々則

事。本会は左の事業をわつ。一、会報の発行。二、會員名簿の作成。三、その他本会の目的達成に必要な事。

本会は通常會員および特別會員を以て組織する。

一、通常會員は農獸醫學部、旧農學部、専門部旧拓殖部農藝經濟科、東京農工大學東京高等獸醫學校及東京獸医歯科専門學校卒業生並びに三名以上の會員より推薦されかつ理事会において承認された者。

二、特別會員は農獸醫學部教職員並びに本会に特に功勞のあつた者。

本会は適當の地に本部を、各学科別に分会を置く。

本会に在りて役員を有する。名譽會長、會長各一名、副會長

二名。理事廿四名。監事一名及び評議員若干名。会長は本会に特に功勞のあつた者を、理事会の承認を求めた上で、理事に推薦することが出来る。

各幹事会長は理事会において推薦したものを評議員会において承認し会長を委嘱する。会長副会長は理事会において互選する。

理事及び評議員は各分会において、監事は理事会において通常會員中よりそれぞれ選出する。

各役員は任期は一年とする。役員に欠員を生じた場合、は選出母体が之を補充し、補充された役員は任期は前年度の残任期間を以てこれにあつてゐる。但し役員は再選を許さない。

会長は本会を代表して会務を統轄し、理事会の決議に於てその執行にあたる。副会長は会長を補佐し必要に於て会長の職務を代行する。

幹事員会は毎年一回会長が之を招集する。但し理事会の請求があれば会長は直ちに臨時評議員会を招集しなくてはならない。各会議の決定は多数決制にもとづく。可

理事會は過半数の理事が出席する事によつて成立する。理事は三月に一回以上の理事會を開き、その議長となる。但し五名以上の理事が請求があれば会長は直ちに臨時理事會を招集しなければならない。理事會において事務局長が会務を報告する。

本會は事務局を設けし事務局長は理事會が任命し事務員は會員中より若干の職員を任命しうる。

會員は入會金として金一百圓並びに毎年維持費百圓を支拂ふ。分会を通じて本會に納入し、その職業、住所、氏名等を詳細に本會に通知する事を要する、移動ありたる時も同様を通知する。

本會の経費は會費、寄附金並びにその他の取入をもつてこれにあてゐる。

本會則の改正は理事會並びに評議員會の議を経なければならぬ。改正は理事會の議を經なければならぬ。

前項の決議を成すには各會議において出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

壬午六月四日改正

